

## 平成30年度第2回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 平成30年7月4日(水)14:00～17:00

2 場 所 福知山市役所農業委員会室601(6階)

### 3 出席者

委員	青山委員長、大久保委員長職務代理、菊田委員、中井委員、細見委員
福知山市	渡辺室長、大橋次長、岸本課長補佐(途中入室)、大槻主査、中田囑託
福知山公立 大学	井口学長、富野副学長、平野教授、矢口教授、芦田教授、山本事務局長(途中入室)、竹友事務局次長、内田GM、外賀AM、矢野

### 4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題】 平成29年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価について	福知山公立大学から【資料2】により概要説明。
2	【報告事項】 平成29年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表等について	福知山公立大学から【資料6、7】により概要報告。
3	意見交換・質疑等	(主な意見) 【議題】 ■市民向け報告会は、回数が多ければいいというわけではないが、「市民」と「大学」との距離を近づけていただきたい。今後も市民と会話できる機会を設けてほしい。 ■様々な団体と交流し、外部意見の取り込みに努められているようだが、中期計画に定める経営改善につながったのかが読み取りにくい。 ■地域に根ざした公立大学として北近畿地域から多くの学生に来てほしいため、北近畿地域の高校に対する高校訪問を重視してほしい ■平成31年度以降の年度計画には入試制度改革に関する項目や地元からの志願率に関する項目を設けてほしい。 ■出張講義は今後も戦略的かつ積極的に取り組んでほしい。高校で大学の出張講義を聴き、その大

		<p>学に行きたくなったという生徒は多い。</p> <p>【報告事項】</p> <p>■決算報告書の支出のうち教育研究費の決算額が予算額に比して12,142千円減少しているが、教育の質は落ちていないのか。また、教育研究費を削ったことによって余剰金が出たのではないのか。</p>
--	--	--

## 5 次第

- (1) 開会挨拶 青山委員長
- (2) 事務局挨拶 渡辺市長公室長
- (3) 事務局説明

【資料1、3-1、3-2、4、5】により業務実績評価の進め方を説明。

【参考3】により財務諸表の承認手続きを説明。

⇒委員からは特に意見なし。

- (4) 議題：平成29年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価について  
福知山公立大学ヒアリング（⇒は大学回答）

(青山委員長)

ただいまから福知山公立大学へのヒアリングを開始する。

まずは、大学より業務実績報告書について概要説明をお願いしたい。

大学より【資料2】業務実績報告書により概要説明

(委員)

- 小項目144

平成28年度は自己評価「4」であるのに今年は「3」としている理由は。業務実績は特に変わってないよう見受けられるが。

⇒平成28年度はインフルエンザ予防を呼びかけ罹患者0人であったが、今年はインフルエンザになった人がいたため「3」としている。

(委員)

- 自己評価3、4の小項目は引き続き力を入れてほしい。

- 小項目85

市民向け報告会は、回数が多ければいいというわけではないが、「市民」と「大学」との距離を近づけていただきたい。今後も市民と会話できる機会を設けてほしい。

(委員)

- 小項目15

オープンキャンパスにおいて担当教員の模擬授業を行い、授業参観も行うとなると、ある程度段取りが必要であるが、結果的に授業参観に思いうような参加を促すことができなかつたということは、計画の段階で十分な調整ができていないので

はないかと推察するがいかがか。

(委員)

- 小項目15は、教職員による授業参加者が少なかったので、「2」と評価しているのか。

⇒お見込みのとおりである。教職員が十分参加できず、FDとして不十分であったため、「2」と評価した。

(委員)

- **2 大項目別評価 (1)**

1) 「実践科目の必修を行った。」ではなく「必修化を行った。」ではないか。

「交流観光系を新たに設けて、」では科目区分なのかどうかわかりにくい。

6) 「学生面談に活用するとともに」は主語のGPAがないためわかりにくい。

8) ○回生、○年生のどちらかに統一を。

- **小項目5**

京丹後市、宮津市、伊根町でのフィールドワークの件数がわかれば記載してはどうか。

- **小項目6**

「学生の就職に向けた実践実習の機会として、一定の有用性はあった。」とあるが、一定の有用性とは何か。

- **小項目8**

学生の予習・復習（授業外学習）の状況は、何により測定しているのか。測定の有無を記載してはどうか。

- **小項目13**

研修会、勉強会ごとの参加者数を記載してはどうか。

- **小項目15**

ピアレビューということであればシラバスどおりされているのか。シラバスにアクティブラーニングという目的があれば、授業の達成目標に向けて適切に授業ができていくのかどうかという観点で取り組む必要がある。

FDの観点ではオープンキャンパスと切り離れたほうがいいのではないか。

- **小項目25**

学生表彰はどのような学生が対象か、どういう観点で評価したのか明記したほうがよい。

- **小項目30**

業務の実績の1行目「臨床心理士を月2回来学し、」は「臨床心理士が月2回来学し、」の誤り。

- **小項目31**

「後学期」を使用されているが、「後期」が使用されているところもある。学則の記載に統一してはどうか。

- **小項目34**

公務員対策講座と就職講話と一緒に記載されており、どちらのことを指しているのかわかりづらいため、切り離して記載いただきたい。

- **小項目41**

4207 室という表記ではわかりにくい。

- **小項目 4 3**  
1 段落目、「5 月 1 6 日北近畿地域連携会議」に助詞がないので訂正したほうがわかりやすい。
- **小項目 5 2**  
Ki-tare と突然記載されているが何かわからない。正式名称を記載したほうが望ましい。
- **小項目 6 5**  
年度計画に対応する学内のガバナンスに関してのみ記載すればいいので、「議事録を公開している。」ことは記載不要ではないか。
- **小項目 6 6**  
年度計画は全学協議会とあるが、業務の実績には研修会と記載されている。研修会とは全学協議会のことなのか。
- **小項目 6 7・7 2・7 3**  
年度計画が漠然としており、達成しているかどうかわからない。平成 3 1 年度年度計画の立て方を見直したほうがよい。
- **小項目 8 5**  
活動報告会の参加者数がわかれば記載いただきたい。
- **小項目 9 1**  
大学認証評価適合に敬意を賞したい。大学基準協会による評価内容の中で優れた点に関する記述があれば「4」になるのではないか。
- **小項目 9 3**  
多様で柔軟な人事制度に関する項目であるため、最終段落の「知の拠点」～の一文は不必要ではないか。
- **小項目 1 0 9**  
各施設の利用者数は適切な料金を設定したうえでの人数だったのかが見えない。施設を無料にすると人数は増え、有料にすると人数は減る。開放と収益性の関係性を見たうえで施設利用料金を検討する必要がある。
- **小項目 1 1 0**  
ふるさと納税についてはどこまで進んでいるのか。
- **小項目 1 2 8**  
一般的に推薦と一般入試での学生層はそれぞれ偏差値が異なると推察するが、結果的に成績の差異が少なかったとあるが、その分析結果があれば教えてほしい。

《小項目 1 5：オープンキャンパスにおける模擬授業、授業参観について》

⇒ 1 5 コマの授業がシラバスどおり行われているのかについては、学生にアンケートすることにより点検している。

各教員により授業の進め方は多様。教員にとって、互いの授業を見ることは重要と捉えている。しかし、教員が多忙であるため、これまで授業参観のスケジュールがなかなか合わなかった。

そうした中、オープンキャンパスの日は全教員が一堂に会する良き機会であるた

め、授業参観を行うこととした。オープンキャンパスは高校生を対象としたものであり、同一条件のもとで授業を行うことができるので、各教員の授業を比較しやすいという利点がある。しかも、学生から評価が高い先生の授業を参観することができるため、非常に参考になる。以上のような理由でオープンキャンパスにおいて模擬授業、授業参観を実施する形式をとった。

#### 《小項目 9 1 : 大学認証評価について》

⇒大学認証評価を受審して適合を受けるということは本来は当たり前のことであるが、本学は通常の大学認証評価とは意味合いが大きく異なると考えている。大学認証評価は7年間の大学のエビデンスをもとに評価する。しかし、前身の成美大学に対する大学不適合判定を早期に解消するべく、開学して実質1年という状況で評価を受けた。エビデンスが少ない中、成美大学と現在の福知山公立大学を繋ぐ作業が非常に難しかった。こうした状況である中、適合判定を受けることができたことは大きな成果として自己評価している。大学基準協会も評価するのが非常に大変だったと推察するが、福知山公立大学開学以降の取組を鑑み、期待値を含めて評価いただいたものと捉えている。

(委員)

認証評価のコメントに「～期待したい。」という記載があるのであれば、評価しやすいので記載して頂きたい。

#### 《小項目 1 1 0 : ふるさと納税について》

⇒ふるさと納税は思っていたほど広く集まらなかった。結果的に先頭切って頑張っていたのは教職員だった。保護者にも案内を呼びかけたが、それほど大きな効果を挙げられていないのが事実。また、ふるさと納税制度は直接大学に入るわけではなく、運営費交付金に反映されるわけでもない。こうした理由により自己評価を2とした。しかし、ふるさと納税制度をスタートしたことは意義のあることだと感じている。

(事務局)

ふるさと納税を活用し、福知山公立大学奨学金制度の財源に充てている。直接、大学の運営費に充当されるものではないが、奨学金という形で学生に届けている。なお、ふるさと納税額が伸びなかった背景としては、昨年度、総務省の指導によりふるさと納税の返礼品を納税額の3割にしたことも考えられる。

(委員)

#### ●小項目 7 1～7 3

様々な団体と交流し、外部意見の取り込みに努められているようだが、中期計画に定める経営改善につながったのかが読み取りにくい。

#### ●小項目 1 0 1

北近畿地域の学生に進学してもらえる大学になってほしい。高校訪問の結果、北近畿地域の高校生の志願者数にどう反映したのか。

⇒北近畿地域の高校生を対象とした地域枠にそもそも応募が少ない状況にある。

現在のように地域経営学部という1学部のみを選択肢しかなければ、ごくわず

かの要望にしか応えることができない。新学部ができれば少しは改善するのではないかと考えている。

現在、福知山公立大学のレベルが少しずつ上がってきており、全国から学生が来ると地元の学生が入りにくくなる。

前身の大学のイメージを払拭し、進路の先生や保護者の認知を広げる必要性がある。まだ開学して2年であり実績が少ないため、実績を高めていくことが重要であると考えている。

(委員)

●小項目101

地域に根ざした公立大学として北近畿地域から多くの学生に来てほしいため、北近畿地域の高校に対する高校訪問を重視してほしいが、実数43校、延べ97校ということは北近畿地域の高校に対して年3回の訪問を達成していないのではないかと。

⇒前年度志願があった北近畿地域の高校に対して年3回訪問を行うという年度計画であり、北近畿地域の全ての高校から志願があったわけではないため、このような訪問実数になっている。

⇒平成29年度に北近畿地域連携会議で北近畿地域の高校2年生を対象としたアンケート調査を実施した。その結果、高校生が進路を決める要因として、教員、友人、家族が大きなウエイトを占めることがわかった。高校教員に対する情報提供も重要であるが、北近畿地域の住民に対してどのような情報を発信していく必要があるかを考えていかなければならない。

(委員)

●小項目83

市民ニーズをどのように把握しているのか。講演会の内容が良かった、悪かったはニーズとは言えない。市民が福知山公立大学に期待されていることなどを記載いただくほうが望ましい。

⇒ニーズを捉えることは簡単なことではない。開学以降、全学体制で地域に実践教育に入っているが、3年間同じ地域に入り、地域の住民と交流する中で、どのような教育を行い、何が課題であるのかを互いに確認し、どのような成果をあげようとしたかについて、それぞれの教員の報告をまとめることにより、初めて大学としての意見を述べるができるようになるのではないかと考えている。

(委員)

- 平成31年度の年度計画においては、地域課題での成果を踏まえて、市民からのニーズを反映して教育研究に取り組むという項目を設定してはどうか。

(委員)

- 地域枠については大学と高校のミスマッチが起こっている。この背景には、前身の大学のイメージを払拭できないことにあるのではないかと推察する。
- 地域外からの志願が多いことは悪いことではないが、地元から必要される大学になってほしい。
- 平成31年度以降の年度計画には入試制度改革に関する項目や地元からの志願率

に関する項目を設けてほしい。

- もう少し地元の高校まわりを行ってもらうべきではないか。

(委員)

- **小項目106**

出張講義の回数が昨年5回から19件に飛躍的に増加しているのに、「3」と評価した理由は。

⇒簡単に言えば苦勞した実感があまりないからかもしれない。気がついてみれば、高校からお声かけが増えてきた。そのほとんどが三丹地域である。地元から少しずつではあるが見直されてきているのかもしれない。

(委員)

- 出張講義は今後も戦略的かつ積極的に取り組んでほしい。高校で大学の出張講義を聴き、その大学に行きたくなったという生徒は多い。

⇒高校訪問や出張講義の際には教員紹介冊子も渡している。

(委員)

- 昨年度、職員数が足りていないという話があったが改善されたのか。

⇒平成29年度は専任職員14人であるが、平成30年5月1日時点では16人に増員することができ、一定改善した。

(委員)

- **小項目45**

科学研究費補助金の応募件数13件という数は多いのか少ないのか。学内的な努力目標件数などはあったのか。

⇒教員全員応募するようという目標にしたが、13人の先生しか関わらなかったため、評価を「2」にしている。

(青山委員長)

委員の皆様におかれては、本日の意見交換の内容を踏まえて業務実勢報告書を評価いただき、7月12日(木)までに評価結果を事務局まで提出いただきたい。

次回7月24日(火)の第3回評価委員会において、それぞれの評価結果を踏まえて、評価委員会としての評価案を決めたい。

(事務局)

委員の皆様から業務実績報告書の追記、修正等を行っていただきたいと御意見があったが、地方独立行政法人法に業務実績報告書を6月30日までに設置団体に提出しなければならないと規定されている。

提出期限以降の業務実績報告書の追記、修正を可とするか、あるいは業務実績報告書に書き表せなかったことは福知山公立大学へのヒアリング等により評価することにするか、判断を仰ぎたい。

(委員)

業務実績報告書を修正するのであれば一定のルールを設けるべき。

(委員)

地方独立行政法人法に6月30日までに提出することが規定されているため、明らかな誤字以外はそのままのほうがいいのではないか。

(委員)

法人としても誤字等がある状態で公表することは不本意ではないかとお察しするので、明らかな軸修正でなければ最小限の範囲で修正してはどうか。

(委員)

原則は今から追記、修正することはできないと思うが、されるのであれば今回のみにしてはどうか。また、来年度以降は業務実績報告書の内容について、評価委員会と事前にキャッチボールはできないか。

⇒来年度、評価委員会委員の皆様と事前にキャッチボールできるのであれば検討してもよいが、業務実績報告書は、あくまでも大学自らで評価を行った内容で提出する必要があるのではないか。評価委員会に事前に見ていただき、お認めいただかなければ提出できないというものではないと考える。

(事務局)

業務実績報告書は大学内で機関決定されたものであり、既に提出いただいたものであるため、今から大きく追記、修正することは望ましくないと考える。ただし、軽微な部分は本市と大学で協議し、修正できる範囲で対応いただく方向で考えたい。

評価委員会の皆様と業務実績報告書の内容について事前にキャッチボールできるかどうかは検討したい。

#### (5) 報告事項：平成29年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表等について 福知山公立大学ヒアリング (⇒は大学回答)

(青山委員長)

ただいまから福知山公立大学へのヒアリングを開始する。

まずは、大学より業務実績報告書について概要説明をお願いしたい。

大学より【資料6】【資料7】により概要説明

(委員)

● 科学研究費補助金と決算報告書の教育研究費は別物であると切り離して考えてよいか。また、科学研究費補助金の採択がなくても研究が進められるものなのか。

(委員)

● 科学研究費補助金と教育研究費は切り離してよい。また、科学研究費補助金が採択されなければ、先生方の個人研究費で研究することになる。

⇒科学研究費補助金以外にも個別の受託研究費等があり、市町や企業からの依頼はそうした受託研究費等で取り組んでいる。科学研究費補助金がなければ研究できないというわけではない。

(委員)

● 【資料6】 決算報告書の支出のうち教育研究費の決算額が予算額に比して12,142千円減少しているが、教育の質は落ちていないのか。また、教育研究費を削ったことによって余剰金が出たのではないか。



⇒平成29年度予算編成時に教育研究費として計上していた費用（食堂券売機購入費等）を一般管理費に振り替えたものであり、実質、教育の質に変更はない。

6 その他  
特になし

7 閉会

以上